(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-267694
(P2004-267694A)
(43)公開日　平成16年9月30日(2004.9.30)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
A62B 18/08	A62B 18/08	C	2E185
A62B 18/02	A62B 18/02	C	

審査請求 未請求　請求項の数 4　書面　（全 8 頁）

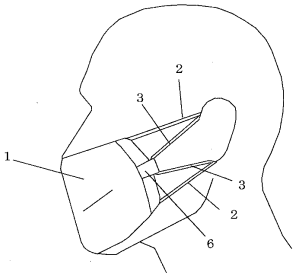
(21)出願番号　特願2003-104658(P2003-104658)
(22)出願日　平成15年3月4日(2003.3.4)

(71)出願人　301010940
小林　幸郎
東京都西東京市住吉町１丁目９番２３号
ＫＳハイム２０３号室
(72)発明者　小林　幸郎
東京都西東京市住吉町１丁目９番２３号
ＫＳハイム２０３号室

Ｆターム(参考)　2E185 AA07　BA04　CC36

(54)【発明の名称】二重紐マスク

(57)【要約】
【目的】従来のマスクは、装着時にマスク本体の端が膨らみ、頬のあたりに隙間ができてしまう。その頬にできてしまう隙間を押さえ、マスクの顔面に対する密着性をより高めることを可能とするマスクを提供する。
【構成】マスク本体１の左右端中央部に設けられた耳掛け中央紐３が、マスク本体端中央部８を引きつけ、マスク本体の左右端にできる頬部の隙間７を押さえることにより、マスク本体を顔面により密着させることができる。
【選択図】　図１７



【特許請求の範囲】
【請求項１】
マスク本体とその左右端部のそれぞれに耳掛け主紐を持つマスクにおいて、該耳掛け主紐とは別の紐部材からなる略環状の耳掛け中央紐が、マスク本体の左右両端中央部にそれぞれ取り付けられて形成されることを特徴とするマスク。
【請求項２】
マスク本体とその左右端部のそれぞれに耳掛け主紐を持つマスクにおいて、該耳掛け主紐と一体の紐部材からなる耳掛け中央紐が、マスク本体の左右両端中央部に、それぞれ一つずつ設けられた中央紐通し部からループ状に引き出されて形成されることを特徴とするマスク。
【請求項３】
マスク本体とその左右端部のそれぞれに耳掛け紐を持つマスクにおいて、マスク本体の左右端上部から延出され、マスク本体の左右端の中央部にかけて略環状に設けられた耳掛け紐と、マスク本体の左右端下部から延出され、マスク本体の左右端の中央部にかけて略環状に設けられた耳掛け紐を、マスク本体の左右両端にそれぞれ有することにより、耳掛け中央紐が形成されることを特徴とするマスク。
【請求項４】
マスク本体とは別の部材からなる耳掛け紐固定部によって耳掛け紐が取り付けられていることを特徴とする、請求項１・２・３記載のマスク。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、耳掛け紐を有する顔面装着用のマスクに関する。さらに詳しくは、耳掛け紐によりマスク本体を顔面に隙間なく密着させ、とくに左右頬部にできる隙間を押さえるマスクに関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来のマスクは、その装着時にマスク本体の左右端の中央部がたるみ、頬の部分に隙間ができることが多く、呼吸時に頬の部分にできた隙間から呼気が漏れてしまい、マスクによる塵などの濾過効率が著しく落ちてしまうという欠点があった。そこで、粘着材などを使用してマスク本体を頬などに直接密着させるものもあるが、それらは脱着に手間がかかったり、使い勝手が悪かった。
【０００３】
また、ループ状の二重紐構造を持つマスクとして、特開平９－１０３４２号公報、特開平１０－２８６３１９号公報などがあるが、それらは耳掛け紐の長さを調整することを主な目的としたものであって、頬の部分にできる隙間を押さえることを目的とするものではなかった。
【０００４】
さらに、上記特開平９－１０３４２号公報のマスクは、マスク本体の片側端部の中央部に二つの穴を設け、ループ状の二重紐構造を形成しているものの、その使用目的が耳掛け紐の長さを調節することを主な目的とされているため、ループ状の二重紐の設置はマスク本体の片側端部のみに限定されている。そのため、頬の部分にできる隙間を押さえ、マスク本体の顔面への密着性を高めるものとしては不完全なものだった。
【０００５】
またさらに、二重紐構造を持つマスクとして、実用新案登録第３０８９４７２号があるが、これは二重紐構造を持つが、その使用目的から、弾性紐体を極力マスク本体の左右端の上部及び下部に取り付ける必要がある。しかし、本発明の目的である、マスク装着時にできる左右頬部の隙間を押さえるためには、弾性紐体はマスク本体端の上部及び下部ではなく、中央部に取り付けられる必要がある。この点が、実用新案登録第３０８９４７２号と本発明との大きく異なる点である。

【０００６】
また、従来のマスクは、マスク本体がガーゼなどの布によって形成される場合が多いが、ガーゼなどの布に、直接穴を開けるなどの加工をする場合、その布の性質によっては、穴を開けた部分が非常にほつれやすくなってしまうという問題点がある。
【０００７】
【発明が解決しようとする課題】
本発明は、マスク装着時にできる左右頬部の隙間を押さえ、顔面に対するマスクの密着性をより高めることを目的とする。
【０００８】
【課題を解決するための手段】
前記目的を達成するために本発明の請求項１によれば、マスク本体とその左右端部のそれぞれに耳掛け主紐を持つマスクにおいて、該耳掛け主紐とは別の紐部材からなる略環状の耳掛け中央紐が、マスク本体の左右両端中央部にそれぞれ取り付けられて形成されている。
【０００９】
次に、本発明の請求項２によれば、マスク本体とその左右端部のそれぞれに耳掛け主紐を持つマスクにおいて、該耳掛け主紐と一体の紐部材からなる耳掛け中央紐が、マスク本体の左右両端中央部に、それぞれ一つずつ設けられた中央紐通し部からループ状に引き出されて形成されている。
【００１０】
さらに、本発明の請求項３によれば、マスク本体とその左右端部のそれぞれに耳掛け紐を持つマスクにおいて、マスク本体の左右端上部から延出され、マスク本体の左右端の中央部にかけて略環状に設けられた耳掛け紐と、マスク本体の左右端下部から延出され、マスク本体の左右端の中央部にかけて略環状に設けられた耳掛け紐を、マスク本体の左右両端にそれぞれ有することにより、耳掛け中央紐が形成されている。
【００１１】
また、本発明の請求項４によれば、マスク本体とは別の部材からなる耳掛け紐固定部によって耳掛け紐が取り付けられている。
【００１２】
【実施例】
以下、本発明の実施形態の例を示す。図１６に示すように、従来のマスクは、マスク本体１の左右端部に設けられた耳掛け主紐２が、マスク本体の左右端の上部下部を引きつけ、マスク本体１を顔面に密着させようと作用するが、その際、マスク本体１の左右端の中央部分が膨らみ、頬部に隙間７ができてしまう。
【００１３】
それに対し、図１７に示すように、本発明の二重紐マスクは、マスク本体の左右端中央部に設けられた耳掛け中央紐３が、マスク本体端中央部を引きつけることにより、マスク本体の左右端の中央部にできる頬の隙間を押さえ、マスク本体をより顔面に密着させることができる。
【００１４】
次に、図１・図２・図３・図４は本発明の二重紐マスクの請求項１における一実施例である。図１においては、耳掛け主紐２と耳掛け中央紐３はそれぞれ別の弾性紐体からなり、略環状の耳掛け中央紐３は、マスク本体１の左右端の中央部に、縫いつけ又は接着などにより取り付けられた耳掛け紐固定部６を通されて形成される。なお、耳掛け中央紐３は、耳掛け紐固定部６に直接縫いつけ又は接着などにより取り付けられていてもかまわない。
【００１５】
図２は、あらかじめ環状に形成された耳掛け中央紐３を、マスク本体１の左右端の中央部に、縫いつけ又は接着などにより取り付けられて形成された一例である。
【００１６】
図３は、耳掛け主紐２とは別の弾性紐体からなる、略環状の耳掛け中央紐３が、マスク本

体１の左右端の中央部に、縫いつけ又は接着などにより取り付けられて形成された一例である。

【００１７】

次に、図４においては、耳掛け主紐２と耳掛け中央紐３はそれぞれ別の弾性紐体からなり、耳掛け中央紐３は、マスク本体１の左右端の中央部に設けられた二つの中央紐通し部４より略還状に通されて形成されている。なお、中央紐通し部４は、弾性紐体が布などを貫通することができれば、特別な加工を施す必要はない。例えば、網目状の布などを用いた場合は、その網目の隙間から弾性紐体を通せばよい。

【００１８】

次に、図５・図６・図７は本発明の二重紐マスクの請求項２における一実施例である。図５は、耳掛け主紐２と、耳掛け中央紐３が一体のループ状の弾性紐体からなり、耳掛け中央紐３は、マスク本体１の左右端の中央部に設けられた一つの中央紐通し部４から引き出されて形成されている。なお、中央紐通し部４は、弾性紐体が布などを貫通することができれば、特別な加工を施す必要はない。例えば、網目状の布などを用いた場合は、その網目の隙間から弾性紐体を引き出せばよい。また、耳掛け中央紐３を一つの中央紐通し部から引き出すため構造が簡単である。

【００１９】

次に、図６は、マスク本体１の左右両端の上部から中央部にかけてを覆うように設けられた耳掛け紐固定部６と、マスク本体１の左右両端の下部から中央部にかけてを覆うように設けられた耳掛け紐固定部６により耳掛け主紐２を取り付けることで、上下の耳掛け紐固定部６の間に中央紐通し部４が形成され、そこから耳掛け主紐２をループ状に引き出し、耳掛け中央紐３を形成した一例である。

【００２０】

次に、図７は、耳掛け中央紐３をあらかじめループ状に引き出した形で、耳掛け主紐２を、マスク本体１の左右両端の上部から中央部と下部から中央部にかけて、縫いつけ又は接着などにより取り付けることにより、中央紐通し部４が形成され、耳掛け中央紐３を形成した一例である。

【００２１】

次に、図８・図９・図１０・図１１・図１２・図１３・図１４・図１５は本発明の二重紐マスクの請求項３における一実施例である。図８においては、マスク本体１の左右端上部と、左右端下部から延出された耳掛け主紐を凹状に曲げ、その一部分をマスク本体１の左右端の中央部に、縫いつけ又は接着などにより取り付けることにより、耳掛け中央紐３に相当する部分が形成されている。

【００２２】

図９においては、マスク本体１の左右端上部と、左右端下部から延出された耳掛け紐が、マスク本体１の左右端の中央部に設けられた二つの中央紐通し部４から凹状に通されることにより、耳掛け中央紐３に相当する部分が形成される。なお、中央紐通し部４は、弾性紐体が布などを貫通することができれば、特別な加工を施す必要はない。例えば、網目状の布などを用いた場合は、その網目の隙間から弾性紐体を通せばよい。

【００２３】

次に、図１０と図１１は、マスク本体１の左右端上部と、左右端下部から延出された耳掛け紐の一部分を、マスク本体１の左右端の中央部に、縫いつけ又は接着などにより取り付け、略環状を形成し、耳掛け中央紐３に相当する部分が形成される。

【００２４】

図１２においては、マスク本体１の左右端上部と、左右端下部から延出された耳掛け紐を凹状に曲げ、その一部分を、マスク本体１の左右端の中央部に縫いつけ又は接着などにより取り付けられた耳掛け紐固定部６に通すことにより、耳掛け中央紐３に相当する部分が形成される。なお、耳掛け主紐２の一部分は、耳掛け紐固定部６に直接縫いつけ又は接着などにより取り付けられていてもかまわない。

【００２５】

図１３においては、マスク本体１の左右端上部と、左右端下部から延出された耳掛け紐を螺旋状に曲げ、その一部分を、マスク本体１の左右端の中央部に縫いつけ又は接着などにより取り付けられた耳掛け紐固定部６に通すことにより、耳掛け中央紐３に相当する部分が形成される。なお、耳掛け主紐２の一部分は、耳掛け紐固定部６に直接縫いつけ又は接着などにより取り付けられていてもかまわない。

【００２６】

図１４は、マスク本体１の左右端の上部及び下部から延出され、マスク本体１左右端中央部に設けられた中央紐通し部４を通り、略環状に形成された耳掛け紐を、マスク本体１の左右端にそれぞれ二つずつ形成することにより、耳掛け中央紐３に相当する部分を形成している。

【００２７】

図１５は、マスク本体１の左右端の上部から中央部及び、マスク本体１の左右端の下部から中央部にかけてを覆うように設けられた耳掛け紐固定部６に、略環状の耳掛け紐をそれぞれ取り付けることにより、耳掛け中央紐３に相当する部分を形成した一例である。略環状の耳掛け紐は、それぞれ、マスク本体１の左右端の上部及び下部から延出され、マスク本体中央部に取り付けられる形で略環状を形成している。

【００２８】

また、本発明におけるマスク本体１の左右端の中央部とは、マスク本体１の左右端の一辺の中央点から、半径約、マスク本体１の左右端の一辺の長さの約５分の１程度の範囲内であることが望ましい。

【００２９】

また、本発明の二重紐マスクにおける耳掛け主紐とは、マスク本体１の左右端上部及び下部を支点として、耳に掛けることによって、マスク本体１を顔面に保持する紐部材を指すものとする。また、耳掛け中央紐とは、マスク本体１の左右端中央部を支点として、耳に掛けることによって、主にマスク本体１の端部にできる頬部の隙間をふさぐことを目的とした紐部材を指すものとする。なお、請求項３の場合、マスク本体１の左右端上部及び下部を支点として、耳に掛かる部分までが耳掛け主紐の役割を果たし、マスク本体１の左右端中央部を支点として、耳に掛かる部分までが耳掛け中央紐の役割を果たすことになる。

【００３０】

そして、耳掛け紐固定部６について、マスク本体１が、ガーゼなどの布によって形成されている場合、直接ガーゼに耳掛け中央紐を通すための穴を開けようとすると、ガーゼの性質上、穴を開けた部分が非常にほつれやすくなってしまう。そこで、別の布部材などで作られた耳掛け紐固定部６を、マスク本体に縫いつけ又は接着などにより取り付けることにより、マスク本体１に穴を開けることなく、耳掛け中央紐などを容易に取り付けることができるようになる。

【００３１】

図１８・図１９は、本発明の二重紐マスクにおける耳掛け紐固定部６の取り付け例を示す上面図である。図１８は、耳掛け紐固定部６がマスク本体１を挟むようにして、縫いつけ又は接着などにより取り付けられた例である。耳掛け紐は耳掛け紐通し部８を通されて取り付けられる。図１９は、あらかじめ耳掛け紐通し部８を形成した耳掛け紐固定部６を、マスク本体１に縫いつけ又は接着などにより取り付けた例である。

【００３２】

なお、上記実施例はいずれも本発明の一例を示したものであり、本発明はこれらに必ずしも限定されるものではない。

【００３３】

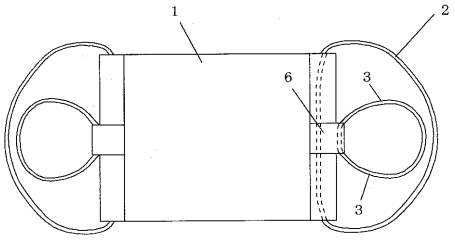
【発明の効果】

以上のように、請求項１・２・３・４記載の発明によれば、従来のマスク装着時にできる左右頬部の隙間を押さえることが可能となり、顔面に対するマスクの密着性をより高めたマスクを提供することが可能となる。

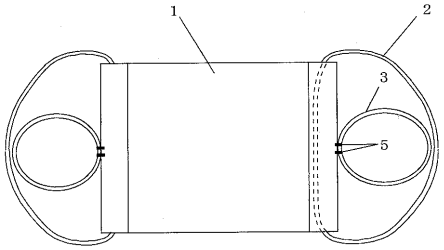
【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図２】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図３】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図４】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図５】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図６】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図７】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図８】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図９】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図１０】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図１１】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図１２】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図１３】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図１４】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図１５】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す正面図である。
【図１６】従来のマスクの装着例を示した側面図である。
【図１７】本発明の二重紐マスクの一装着例を示した側面図である。
【図１８】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す上面図である。
【図１９】本発明の二重紐マスクの一実施形態を示す上面図である。
【符号の説明】
1　マスク本体
2　耳掛け主紐
3　耳掛け中央紐
4　中央紐通し部
5　縫いつけ又は接着部
6　耳掛け紐固定部
7　頬部隙間
8　耳掛け紐通し部

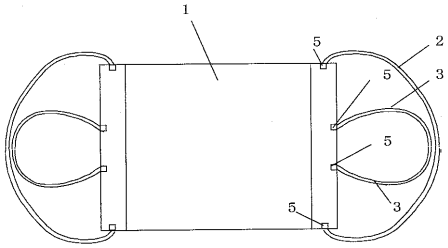
【図１】



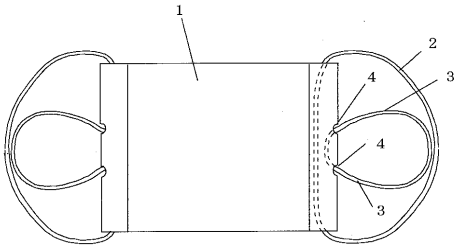
【図２】



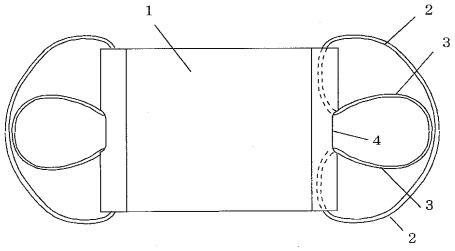
【図３】



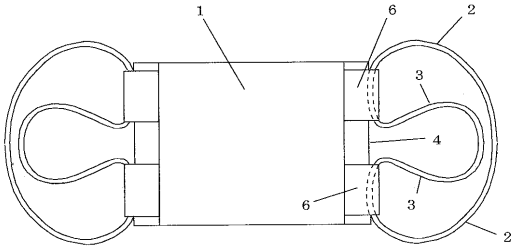
【図４】



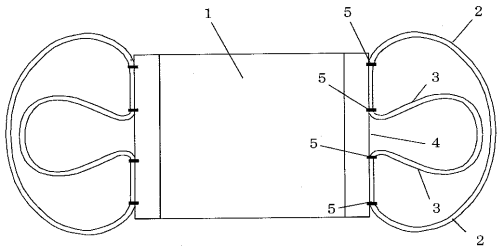
【図５】



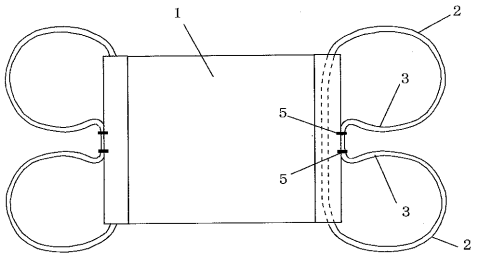
【図６】



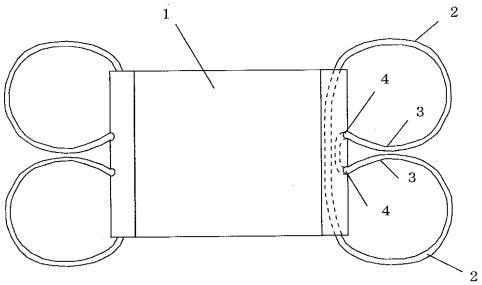
【図７】



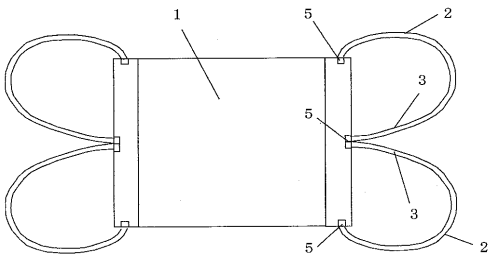
【図８】



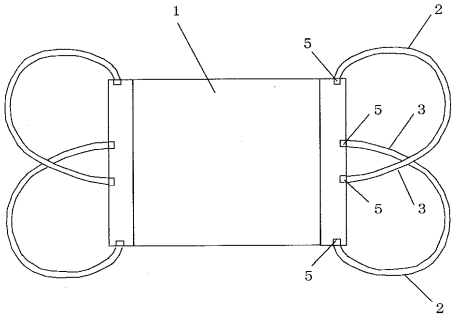
【図９】



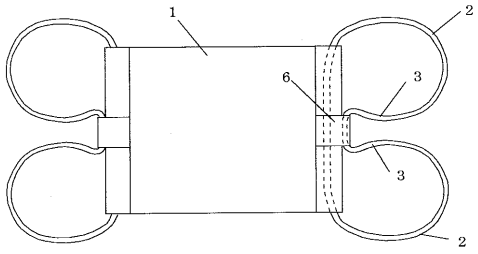
【図１０】



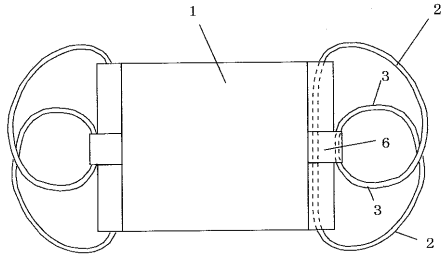
【図１１】



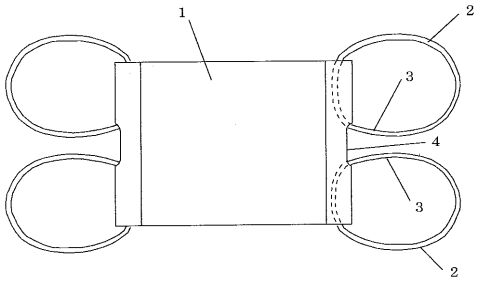
【図１２】



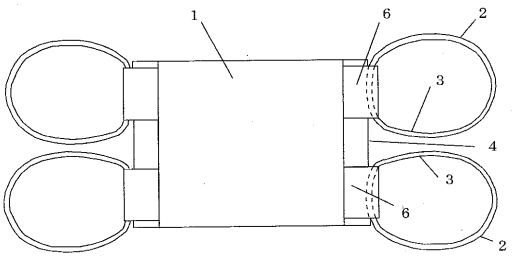
【図１３】



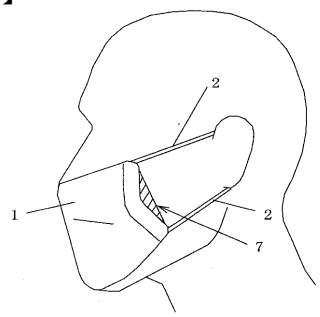
【図１４】



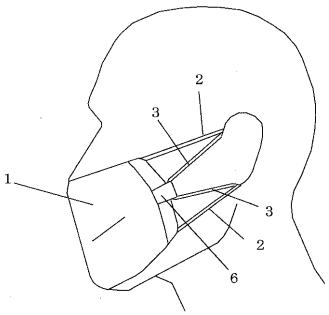
【図１５】



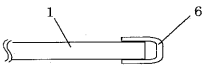
【図１６】



【図１７】



【図１８】



【図１９】

